

今、気になる TOPICS

70歳以上の高齢者にカメラの前で様々な思い出を語ってもらい、インターネット上で無料公開する「記憶の銀行」というユニークな取り組みが世界に広がっている。有名無名に関係なく、70歳以上であれば誰もがインタビュ対象で、今年3月からは日本でも本格的に活動がスタート。既に140本以上の動画が公開されている。

(木藤麻紀)



富田直子さん

「戦争でなくした一番大事なものは、それは空襲で死んだお母さん」「石巻のお正月はまずはお汁粉。次にお雑煮をいただくんですよ」「女房は小学校の同級生。同じクラスでいつも一緒に遊んでいました」

メモロ「記憶の銀行」

映像で世界へ次世代へ

これらは、いずれも88

歳、87歳、73歳の男女3人のインタビュを収めた動画の1コマだ。戦争体験、生まれ育った地方のおせち料理、妻との馴れ初めなど、語る内容は人それぞれ

だが、穏やかにゆったりと思い出を話す笑顔について引き込まれる。これらの動画は、インターネット上で公開されたところ、世界中にメモロの活動に賛同する動きが拡大。

今ではイギリス、ドイツ、アメリカの経験を持つお年寄りの記憶は「宝物」。この宝物を子どもたちはもちろん、多くの人に共有してもいい、未来につなげたいと富田さん。

「若い世代の知らないス、ドイツ、アメリカの経験を持つお年寄りの記憶は「宝物」。この宝物を子どもたちはもちろん、多くの人に共有してもいい、未来につなげたいと富田さん。

「命、未来をつないでいくことを常々考えていた」

「戦争でなくした一番大事なものは、それは空襲で死んだお母さん」

「石巻のお正月はまずはお汁粉。次にお雑煮をいただくんですよ」

「女房は小学校の同級生。同じクラスでいつも一緒に遊んでいました」

「戦争でなくした一番大事なものは、それは空襲で死んだお母さん」



「メモロ」は、70歳以上の高齢者に思い出を語ってもらい、インターネット上で無料公開する活動。次の世代に引き継ぎたい記憶を、世代を超えて共有するための無料オンラインアーカイブ(保管庫)で、誰でも投稿出来る。

「メモロ」の活動は2007年夏、イタリア、トリノ近郊の30代の男女4人が始めた。お年寄りへのインタビュを重ね、08年6月から撮影隊を増やすのが当面の大きな目標の一つで、撮影や編集に自信がない人には、ワークショップも開催。携帯電話やデジタルカメラでの気軽な撮影を呼びかける。

動画は、1本当たり5分程度にまとめることが決まり、同じ人に違うテーマで話してもらったものを何本でも投稿可能だ。「子どもの頃に好きだった遊びとか、初めて見た映画とか、テーマを決めて話してもらおうのがコツ」(富田さん)。

日本版のホームページ上でも、「仕事」「場所」「社会・生活」「飲食」などテーマ別に動画が分類されている。

企業のOBに会社員時代の思い出を聞き、その企業のホームページに動画を載せる取り組みも展開。このほか、海外版、日本版それぞれの動画に字幕をつける準備を進めており、戦争体験の動画を学校教材として提供することも検討中だ。

祖父母や両親など、身近な人の話をもっと聞いておけばよかったと後悔した経験がある人は多いはず。年輩者の話にゆっくりと耳を傾けることは、家族の歴史を知るチャンスにもなる。

特別養護老人ホームで、入居者に昔の思い出を語ってもらってもいい。まずは、身近なお年寄りに、少し話を聞いてみませんか。

メモロ「記憶の銀行」のホームページは <http://www.memoro.org/jp/>

「命、未来をつないでいくことを常々考えていた」

最高齢の語り手は101歳。大正時代に通った小学校の思い出などを語っている

「戦争でなくした一番大事なものは、それは空襲で死んだお母さん」

「石巻のお正月はまずはお汁粉。次にお雑煮をいただくんですよ」

「女房は小学校の同級生。同じクラスでいつも一緒に遊んでいました」

「戦争でなくした一番大事なものは、それは空襲で死んだお母さん」

「石巻のお正月はまずはお汁粉。次にお雑煮をいただくんですよ」

「女房は小学校の同級生。同じクラスでいつも一緒に遊んでいました」

「戦争でなくした一番大事なものは、それは空襲で死んだお母さん」

「石巻のお正月はまずはお汁粉。次にお雑煮をいただくんですよ」

「女房は小学校の同級生。同じクラスでいつも一緒に遊んでいました」